



日程や年式など門戸を大きく広げた ビギナー向けヤングタイマー・ラリー。

text & photo : Hiroyuki Kondo (近藤浩之)



今回の名古屋クラシック・ツアーは、フェリーで渥美半島と知多半島をショートカットするルートが生まれ、参加車に好評だった。



ビギナー向けのイベントとはいえ、ルート内に設けられたPCでタイムトライアルを行う本格的なもの。計画中のコロナGT。



凄みのあるフロンズに塗られたランボルギーニ・ミウラは、神奈川県からはるばるやってきた。普段とは異なる顔ぶれが集った。



フェラーリはデイトナ、ディーノから308 GTS、テストロッサ、モンディアル、F355が参加し、ギャラリーの注目を集めていた。



名古屋の白鳥公園に帰ってきたトヨタ2000GT。ワンディイベントながらバラエティに富んだ内容は参加者に好評だった。



2000年までに製作されたスポーツカーと車両の参加条件を拡げたことにより、スキ・カブチーノも滋賀県から参加。



ヒストリック・ラリーに興味を持つエンズージャストはことのほか多く、このBMW Z3のオーナーもその一人。



参加できるイベントに限られるルノー・スピダーだが、今回は存分にラリーを楽しんでいた。こちらも神奈川県からの遠征組だ。

9月22日の午前9時に「Young Timer Rally NAGOYA CLASSIC TOUR」がスタートした。これは、ヒストリックカーをメインとした「Historic Car Meeting」を主催するヒストリックカー・ミーティング実行委員会が開催する、ビギナー向けのタイムラリーイベントなのである。

1泊2日のヒストリックカー・ミーティングに対し、名古屋クラシック・ツアーはワンディのみの開催とされ、参加車種も2000年までに製作されたスポーツカーと間口を拡げ、より参加しやすいイベントとなっている。ビギナー向けといっても、しっかりとしたコマ地図に従ってルートを守り、タイムを競うのはもちろん、コース内に設けられたPC・SPCでタイムトライアルを行う本格的なもの。参加者に何ったところ、タイムラリーには参加したいが2日連続の休みが取れないなど、日程的な制約があるクルマ愛好家の参加も少なかった。

当初予定していた募集台数の50台に対し、70台以上の参加申し込みがあり、コースに設定されたフェリー移動の許容量をオーバーしたため、急遽ルートを変更し2コースに分けた試験的な開催となった今回の名古屋クラシック・ツアー。取材陣は名古屋市内の白鳥庭園をスタートしたAコースに同行したのだが、街中あり観光名所あり、ヒストリックカー・ミーティング実行委員会開催のイベントだけに海沿いのコースもあり、さらにはカーフェリーの乗船も組み込まれていた。ワンディイベントながら、バラエティ豊かなコースが設定され、参加者を飽きさせない配慮はさすがである。

ラリー中は天候にも恵まれ、オープンモデルなどは幌を開けて、まだ暑さの残った名古屋～豊橋～渥美半島～知多半島～名古屋を気持ちよさそうに走り抜けていく。そして沿道にはカメラを構えたクルマ好きが待ち構えており、こんな光景もこのイベントではすでに見慣れた光景だ。

コース設定はもちろんのこと、2コースの工程がクロスしたフェリー乗り場では「しおかぜ太鼓」の演奏が行なわれる中、2つのグループのクルマ達がお対面（ギャラリーも数多く集まっていた）、さらにフェリーでのクルーズランチでもスタッフこだわりのお弁当が参加者に配られ、当日の夕方から行われた懇親会と表彰式ではサンバダンサーが登場と、ワンディという短い時間を思い切り楽しむための工夫やサプライズが盛りだくさん。まさに実行委員会が目指す、エンターテイメント・ラリーといった内容にされていた。

次回のヒストリックカー・ミーティング実行委員会主催のイベントは、12月1～2日に行われるHistoric Car Meeting in 伊勢志摩。事務局長の天野さんによれば、さらなるお楽しみも用意されているというので、興味のある方は参加（下記ホームページを参照）してみたいかがだろうか。●Historic Car Meeting in 伊勢志摩HP <http://historiccarmeeing.com/>



表彰式では、各クラス上位入賞者はもちろん、数多くの特別賞も用意され、ほとんどの参加者に賞品がプレゼントされた。